

論文

## 中国語の依頼表現に関する語用論的研究

金 倩宇

A Pragmatic Study on Request Expressions in Chinese

Qianyu JIN

鹿児島国際大学大学院学術論集 第15集 9-16頁

THE IUK GRADUATE SCHOOL JOURNAL, 15: 9-16

Issued on November 30, 2023

論文

## 中国語の依頼表現に関する語用論的研究

金 倩宇<sup>1</sup>

### A Pragmatic Study on Request Expressions in Chinese

Qianyu JIN<sup>1</sup>

#### Abstract

By referencing three different scenes of face-threatening in Politeness Theory (Brown & Levinson, 1978), this study collects linguistic data related with friends (CN1) and senior students (CN2) from Chinese native speakers at Dalian University of Foreign Languages and analyzed them from the perspective of pragmatics. The results show that the politeness strategies of the requester in CN1 and CN2 are different from each other. When talking with seniors, requesters tend to use “courtesy” and “thanks,” but when with friends, they usually do not use “thanks” and often use negative politeness strategies. With the increase of the difficulty of the request scenario, the differences between CN1 and CN2 are reduced. Furthermore, before the request behavior, the requester’s language preparation for “pleasantries,” “consideration,” and “pre-topic insertion” does not increase, but still focuses on “situation description,” “request,” and “auxiliary behavior.”

キーワード 中国語, 依頼表現, 語用論

*Keywords:* Chinese language, request expressions, pragmatics

#### 1. はじめに

中国語の依頼表現に関する語用論的研究については、Brown & Levinson (1978), 母育新 (2014) などの先行研究があるが、それらに示された理論枠組みでは十分にカバーすることができない。本稿は新たな調査結果を踏まえ、それらの先行研究の記述の妥当性を検証し、中国語の依頼表現の在り方について見解を示したい。

以下、2節ではまず先行研究の問題点を指摘し、本稿の代案を提示する。3節では、「食事の誘い」場面を設定し、学生の友達や先輩に対するポライトネスの使用状況を分析する。4節では、「散歩の付き添い」場面を設定し、学生の友達や先輩に対するポライトネスの使用状況を分析する。5節では、「お金を借りる」場面を設定し、学生の友達や先輩に対するポライトネスの使用状況を分析する。6節では、まとめを行う。

#### 2. 先行研究の問題点と本稿の立場

20世紀のポライトネスに関する理論において最も影響力を持つものはBrown & Levinson理論（以下ではB & L理論と呼ぶ）であろう。Brown & Levinsonは“ポライトネスの普遍理論”を提唱し、“ポライトネス・ストラテジー”に発展させてきた。Brown & Levinson (1987)はポライトネスを人と人のかかわり合いに関する「基本的欲求」として、「ポジティブ・フェイス (Positive Face)」と「ネガティブ・フェイス (Negative Face)」のようなフェイス (面目) があると主張している。B & L理論では、この二種類のフェイスを侵害する行為は「フェイス侵害行為」と呼ばれている。「ポライトネス」は、対話の相手に対する「フェイス侵害度」を軽減するためにとる「言語ストラテジー」、すなわち、相手の二種類のフェイスを保つための言語ストラテジーとして捉えられる。しかし、B & L理論が中国語の会話分析に適用できるかどうかについてはあまり検証されていないようである。ま

<sup>1</sup> 891-0197 鹿児島市坂之上8-34-1 鹿児島国際大学大学院国際文化研究科博士後期課程

The International University of Kagoshima Graduate School Intercultural Studies Doctoral Program, 8-34-1 Sakanoue, Kagoshima 891-0197, Japan

2023年5月18日受付, 2023年9月21日採録

た、B & L 理論は FTA (フェイス侵害行為) が発生した場合に使われるとされている。しかし、日常会話には FTA が起こらない場合も多々あるから、B & L 理論の使用場面は限られていると思われる。

1990年代以降、中国ではポライトネスに関する研究が相次いで登場した。例えば、顧曰国 (1992)、曲衛国・陳流芳 (2001)、冉永平・張新紅 (2007)、母育新 (2014) などである。顧曰国 (1992) は、B & L 理論 (1987) の「ネガティブ・フェイス」が中国の「フェイス」とほとんど類似点がないため、中国語のポライトネスには適用できないと考えている。また、冉永平・趙林森 (2018) は、B & L 理論 (1987) が、人間関係のネットワーク構築、社会的な次元、そして相互性に関わる人間関係の構築を無視していると指摘している。

一方、母育新 (2019) は、B & L 理論 (1987) のフェイス侵害公式が定量化しにくいという問題を指摘している。さらに、母育新 (2014) は、電話で中国語母語話者 (以下「CN」)、日本語母語話者 (以下「JN」) および中国国内の日本語学習者の依頼表現に関する「表現連鎖」と「基本態」を分析している。しかし、当該研究は日本語の表現に力を入れているが、中国語の現象については深く掘り下げていない。

中国語の依頼表現について考える場合、語用論的視点を欠かせてはならない。つまり、会話の参加者のキャラクター、年齢、話題などの要素を視野に入れて場面を設定しコーパスを作る必要がある。本研究は中国の大学生に決められた話題をめぐって対話させ、その対話を録音して、文字化した資料を研究のデータとしている。設定されたシーンに応じて聞き取り調査を行い、依頼される側にはその設定を知らせない状態でデータを取った。この方法で手に入れたデータにはリアリティがあると考えられるので、今の大学生の言語使用状況を反映できると思われる。

筆者は大連外国語大学の中国語母語話者 (在学) に聞き取り調査を行いコーパスを作成した。対象者は大連外国語大学に在籍する48人の学部生であり、年齢は19歳から22歳までである。この48人を無作為に対象として選び、二組に分けた。「食事の誘い」、「散歩の付き添い」、「お金を借りる」、「親を騙す」のような四つの場面を設定したが、紙幅の都合上、「親を騙し通る」場面を割愛した。コーパスの客観性を担保するため、筆者は大学生を無作為に募集した。参加者に文字で説明し<sup>1)</sup>、コーパスに基づいて、大連外国語大学の在学学生のポライトネス

に関する使用状況を把握した。そのようなデータに基づいて、中国語母語話者のポライトネスに関する運用実態を明らかにしたい。以下では設定した場面を踏まえて述べていく。

### 3. 「食事の誘い」場面のポライトネスの使用状況

ポライトネスの使用状況について考察する場合、客観的な用例に基づいて分析する必要がある。以下では、「先日依頼される側の助けを受けたので、依頼側がおごる」ということを想定し、「食事の誘い」場面を設定し、中国語における依頼表現の語用的意味を分析する。

#### 3.1. 会話例の説明

以下では、「友人を食事に誘う」会話を CN1 と設定し、「先輩を食事に誘う」会話を CN2 と設定する。CN1 と CN2 の会話における発話の連鎖の状況は表1に示した通りである。

#### 3.2. 統計のデータ

本研究は CN1 と CN2 のすべての会話に現れた発話の連鎖を統計した後、統計ソフト SPSS でカイニ乗検定 (Chi-Squared Test) を行って、CN1 と CN2 に相違度があるかどうかを検証した。統計の結果は表2のようにまとめられる。

#### 3.3. 考察

上記の表によって次のようなことが明らかになったと思われる。

①言語習慣に基づいて考えれば、CN1 言語行為では、使用頻度が50%を超える発話の連鎖が「注意喚起」(60.42%)、「依頼」(93.75%)、「補助行為」(52.08%)、「説明の追加」(66.67%)、「会話の終結」(79.17%) である。CN2 言語行為では、使用頻度が50%を超える発話の連鎖が「注意喚起」(87.5%)、「状況説明」(52.08%)、「依頼」(100%)、「補助行為」(58.33%)、「説明の追加」(64.58%)、「会話の終結」(72.92%) である。

②基本態の構成を見れば、CN1 の基本態は「注意喚起」、「依頼」、「補助行為」、「説明の追加」、「会話の終結」で構成される。一方、CN2 の基本態は「注意喚起」、「状況説明」、「依頼」、「補助行為」、「説明の追加」、「会話の終結」で構成される。

③相違度を見れば、CN1 と CN2 では、「注意喚起」(P=0.003)、「前置き」(P=0.001)、「確認」(P=0.036)、「再度依頼」(P=0.007)、「感謝」(P=0.041) において有意差<sup>2)</sup>がある。特に「注意喚起」、「前置き」、「再度依頼」には明確な差異が見られる。

表1 「友人を食事に誘う」会話例

番号	会話参加者	会話内容	発話の連鎖
1	CN1-1	喂 (もしもし)	注意喚起
2	CN1-2	喂 (もしもし)	
3	CN1-1	哈喽啊! (よ!)	挨拶
4	CN1-1	干嘛呢?之前同学聚会你也没去, 不过大家都没啥变化。 (何をしているの?この前同窓会にも来なかったし, まあ, みんな大して変わってないけど)	前話題の挿入
5	CN1-2	在家呢。 (家にいるよ)	
6	CN1-1	我有件事想跟你商量, (ちょっと相談することがあるんだが,)	前置き
7	CN1-1	明天有空吗? (明日, 時間ある?)	(日程) 確認
8	CN1-1	上次帮了我那么大的忙 (この前は大変助かった)	状況説明
9	CN1-1	我请你吃饭?然后看个电影? (一緒に食事に行こう!奢るから, それから映画も見よう!)	依頼
10	CN1-2	不用啊, 都顺手的 (たいしたことじゃないし, 気にしないで)	
11	CN1-1	咱俩半年没见了, 反正疫情也放开了 (君とこうやって会うのは半年ぶりだね。コロナも収まっているから, 行こうよ!)	補助行為
12	CN1-2	那好吧! (分かった!行こう!)	
13	CN1-1	对了, 你妹妹上大学了吗? (そうだ!妹さんは今大学生なの?)	後話題の挿入
14	CN1-2	快了, 今年高考 (まだだよ, 今年大学入学試験を受けるの)	
15	CN1-1	时间好快, 那谢谢了! (速いね!じゃ, ありがとう!)	感謝
16	CN1-1	拜拜! (じゃあね!)	会話の終結
17	CN1-2	拜拜! (じゃあね!)	

表2 CN1とCN2の会話における発話の連鎖による出現回数およびその比率

番号	発話の連鎖	CN1会話における出現回数	CN1会話における未出現回数	出現回数の比率 (%)	CN2会話における出現回数	CN2会話における未出現回数	出現回数の比率 (%)	相違度 $\alpha=0.05$
1	注意喚起	29	19	60.42	42	6	87.5	有 P=0.003
2	挨拶	12	36	25	13	35	27.08	無 P=0.816
3	配慮	4	44	8.33	10	38	20.83	無 P=0.083
4	前話題の挿入	13	35	27.08	6	42	12.5	無 P=0.073
5	前置き	16	32	33.33	3	45	6.25	有 P=0.001
6	確認	8	40	16.67	17	31	35.42	有 P=0.036
7	状況説明	19	29	39.58	25	23	52.08	無 P=0.219
8	依頼	45	3	93.75	48	0	100	無 P=0.078
9	補助行為	25	23	52.08	28	20	58.33	無 P=0.538
10	再度依頼	20	28	41.67	8	40	16.67	有 P=0.007
11	説明の追加	32	16	66.67	31	17	64.58	無 P=0.830
12	後話題の挿入	6	42	12.5	3	45	6.25	無 P=0.294
13	感謝	0	48	0	4	44	8.33	有 P=0.041
14	称賛	1	47	2.08	0	48	0	無 P=0.315
15	会話の終結	38	10	79.17	35	13	72.92	無 P=0.473

### 3.4. この節のまとめ

以上のデータ分析の結果をまとめると、次のようになる。

① CN1とCN2はともに「謝罪」表現を用いることができなく、大学生は電話で依頼をする場合、依頼される側がどのように答えても、依頼する側は「謝罪」表現を用いないのが普通である。コーパスを調べた結果、依頼側の要請に対して、依頼される側が依頼側の要求に応じるのが普通である。これは、比較的受け入れやすい場面だと思われるため、依頼される側に対して、依頼側は「謝罪」の言葉を使用せず、フェイスを侵害する行動に対して補償を行わないことが明らかになった。

②基本態では、CN2はCN1より「状況説明」を追加する場面が多いが、CN1とCN2には明確な相違度がない。コーパスを調べたところ、CN1は「状況説明」を使う頻度が低くないが、CN2の会話では、依頼側が上位者に対し、同意を促すためのリクエストの前に「状況の説明」を行うことが多い。

③ CN1とCN2では、「注意喚起」、「前置き」、「確認」、「再度依頼」、「感謝」においては有意差が見られ、大学生の親友や先輩に対するポライトネス・ストラテジーに違いがあることを突き止めた。親疎関係が大きいほど、「フェイス侵害度」が高くなり、何らかの補償を行おうとする傾向が見られる。上位者に対して、先輩に悪いイメージを与える恐れがあるので、「注意喚起」、「確認」、「感謝」を使うことにより、それをできるだけ改善しようとする心の動きが見られる。同位者に対して依頼される側が拒否した場合でも、依頼する側は拒否の理由に基づいて再度依頼を行うのが普通である。

## 4. 「散歩の付き添い」の場面でのポライトネスの使用状況

以下では、「最近、依頼側は悩みがあるので、依頼される側に一緒に散歩をしてほしい」と申し入れる場面を想定して、「散歩の付き添い」場面を設定し、そのような場面における依頼表現の語用的意味を分析する。

### 4.1. 会話例の説明

ここで、「友人に散歩の付き添いを依頼する」場面の会話をCN1と設定し、「先輩に散歩の付き添いを依頼する」場面の会話をCN2と設定した。CN1とCN2の会話における状況は表3の通りである。

### 4.2. 統計のデータ

CN1とCN2のすべての会話に現れた発話の連鎖を統計

した後、統計ソフト SPSS でカイニ乗検定 (Chi-Squared Test) を行って、CN1とCN2に相違度があるかどうかを検証した。結果は表4に示した通りである。

### 4.3. 考察

上記の表によって次のようなことが明らかになったと思われる。

① CN1言語行為では、使用頻度が50%を超える発話の連鎖が「状況説明」(100%)、「依頼」(87.5%)、「会話の終結」(56.25%)である。CN2言語行為では、使用頻度が50%を超える発話の連鎖が「注意喚起」(85.42%)、「状況説明」(91.67%)、「依頼」(81.25%)、「補助行為」(50%)、「会話の終結」(64.58%)である。

② CN1の基本態は「状況説明」、「依頼」、「会話の終結」で構成される。一方、CN2の基本態は「注意喚起」、「状況説明」、「依頼」、「補助行為」、「会話の終結」で構成される。

③相違度に目を転じてみると、CN1とCN2では、「注意喚起」(P=0.000)、「状況説明」(P=0.041)、「感謝」(P=0.000)において有意差がある。特に「注意喚起」と「感謝」には明確な差異がある。

### 4.4. この節のまとめ

この節の分析結果をまとめると、次のようになる。

①基本態では、CN2はCN1より「注意喚起」と「補助行為」が追加される傾向がある。CN1の基本態は、簡潔かつ明確な依頼行為であり、同位者に対してフェイスを侵害する補償は行われていない。一方、CN2の基本態は、依頼される前に「注意喚起」が追加され、依頼された後には「補助行為」が追加されるという、完全な依頼表現に近いものであり、依頼される側に対してより尊敬の意を表すことが明らかである。

② CN1とCN2では、「注意喚起」、「状況説明」、「感謝」においては有意差が見られ、大学生の友人や先輩に対するポライトネス・ストラテジーに違いが見られる。分析の結果を見れば、上位者に対して「注意喚起」、「状況説明」、「感謝」を使う場合、トラブルを和らげるように、ネガティブ・ポライトネス・ストラテジーを使い、フェイスを侵害する補償をするのが普通である。同位者に対して依頼する場合は、話し手のフェイスが侵害されたかどうかよりも、自分の依頼する内容や結果に関心があるようである。同位者に対して感謝の意を述べないことは友人の間柄である場合、ポジティブポライトネスストラテジーで対応するのが普通である。同位者に「感謝」の意を表さないことは、友人間でポジティブ・ポライトネ



表3 「友人に散歩の付き添いを依頼する」会話例

CN1-1: 依頼側 CN1-2: 依頼される側

番号	会話参加者	会話内容	発話の連鎖
1	CN1-1	喂 (もしもし)	注意喚起
2	CN1-2	喂 (もしもし)	
3	CN1-1	说两句话, 方便不? (ちょっと話したいけど, 今大丈夫?)	配慮
4	CN1-2	说吧 (はい, どうぞ)	
5	CN1-1	我有件事想跟你商量, (ちょっと相談することがあるんですが,)	前置き
6	CN1-1	现在太卷了, 班级同学都在忙考研, 我妈也催我, 简直太闹心了 (クラスのみんなが大学院入学試験の受験準備をしているの。母からもプレッシャーがかけられている。もう耐えられない。)	状況説明
7	CN1-1	你有空不, 陪我出去透透气? (少し時間あるかな, 外で気分転換したいので, 付き合ってくれる?)	依頼
8	CN1-2	行啊, 你也别太上火了, 做好当下吧 (ほどほどでいいから, そんなに焦らなくてもいいと思う。今を生きよう!)	
9	CN1-1	我就知道你不管我的, 真是烦的睡不着 (私の気持ちを無視しないと思った。もう悩んで眠れないぐらいだよ!)	補助行為
10	CN1-2	行, 没问题! (いいよ! 問題ない。)	
11	CN1-1	那咱俩晚上7点, 你家楼下亭子见? (じゃ, 今夜7時, おうちの近くの公園で待ち合わせね!)	説明の追加
12	CN1-2	行, 就这么定了 (オッケー, 決まりね!)	
13	CN1-1	那谢谢了! (ありがとう!)	感謝
14	CN1-1	拜拜! (じゃあね!)	会話の終結
15	CN1-2	拜拜! (じゃあね!)	

表4 CN1とCN2の会話における発話の連鎖による出現回数およびその比率

番号	発話の連鎖	CN1会話における出現回数	CN1会話における未出現回数	出現回数の比率 (%)	CN2会話における出現回数	CN2会話における未出現回数	出現回数の比率 (%)	相違度 $\alpha=0.05$
1	注意喚起	22	26	45.83	41	7	85.42	有 P=0.000
2	挨拶	4	44	8.33	9	39	18.75	無 P=0.136
3	配慮	2	46	4.17	6	42	12.5	無 P=0.140
4	前話題の挿入	18	30	37.5	16	32	33.33	無 P=0.670
5	前置き	2	46	4.17	7	41	14.58	無 P=0.080
6	確認	12	36	25	10	38	20.83	無 P=0.627
7	状況説明	48	0	100	44	4	91.67	有 P=0.041
8	依頼	42	6	87.5	39	9	81.25	無 P=0.399
9	補助行為	18	30	37.5	24	24	50	無 P=0.217
10	再度依頼	7	41	14.58	7	41	14.58	無 P=1.000
11	説明の追加	23	25	47.92	19	29	39.58	無 P=0.411
12	後話題の挿入	10	38	20.83	6	42	12.5	無 P=0.273
13	感謝	0	48	0	18	30	37.5	有 P=0.000
14	謝罪	0	48	0	1	47	2.08	無 P=0.315
15	称賛	0	48	0	2	46	4.17	無 P=0.153
16	会話の終結	27	21	56.25	31	17	64.58	無 P=0.404

ス・ストラテジーが働いていると思われる。

## 5. 「お金を借りる」場面でのポライトネスの使用状況

この節では、「お金がないけど、ずっと前からほしいものを買いたいので、依頼される側にお金を貸してもらいたい」という場面を想定して、「お金を借りる」場面を設定し調査で得られたデータを分析する。

### 5.1. 会話例の説明

ここで、「友人からお金を借りる」会話をCN1として位置づけ、「先輩からお金を借りる」会話をCN2として位置づける。CN1とCN2の会話について発話の連鎖の在り方を分析する。

### 5.2. 統計のデータ

CN1とCN2のすべての会話に現れた発話の連鎖を統計した後、統計ソフトSPSSでカイニ乗検定(Chi-Squared Test)を行って、CN1とCN2に相違度があるかどうかを検証した。検証した結果は表6のようにまとめられる。

### 5.3. 考察

上記の表によって次のようなことが明らかになったと思われる。

① CN1言語行為では、使用頻度が50%を超える発話の連鎖が「注意喚起」(62.5%)、「状況説明」(95.83%)、「依頼」(85.42%)、「補助行為」(68.75%)、「説明の追加」(54.17%)である。CN2言語行為では、使用頻度が50%を超える発話の連鎖が「注意喚起」(83.33%)、「状況説明」(97.92%)、「依頼」(89.58%)、「補助行為」(66.67%)、「説明の追加」(54.17%)及び「感謝」(72.92%)である。

② CN1の基本態は「注意喚起」、「状況説明」、「依頼」、「補助行為」、「説明の追加」で構成される。一方、CN2の基本態は「注意喚起」、「状況説明」、「依頼」、「補助行為」、「説明の追加」及び「感謝」で構成される。

③ 相違度についてCN1とCN2では、「注意喚起」( $P=0.022$ )、「感謝」( $P=0.000$ )において有意差がある。特に「感謝」には明確な差異が見られる。

### 5.4. この節のまとめ

分析の結果を改めてまとめると、次のようになる。

① 基本態では、CN2はCN1と比べて「感謝」が追加されている。依頼される難度の上昇につれ、CN1とCN2の依頼表現に関する「発話の連鎖」がまとまっているように見える。「注意喚起」、「状況説明」、「依頼」については、依頼する側だけではなく、依頼される側が納得するため補助的な言葉、そして内容に関する補足的な表現を用

いる傾向がある。同年配や先輩に対しても、借金という古くから感情を傷つける話題に直面する場合、大学生はより多くのポライトネス・ストラテジーを取る傾向が見られる。

② CN1とCN2では、「注意喚起」、「感謝」において有意差が見られ、大学生の友人や先輩に対するポライトネス・ストラテジーに使い分けがあることが明らかである。上位者に対して「注意喚起」、「感謝」を使うと、トラブルのリスクを回避し、フェイスの侵害を補償する傾向がある。親友の間柄である場合、依頼者が依頼される側に感謝の意を示さないのが普通である。このことから現代の大学生はフェイスを侵害する恐れがある局面においても感謝の意を表さない傾向にあると思われる。このような現象はポジティブ・ポライトネス・ストラテジーとしてとらえられる。依頼する側は直接的に感謝の意を表すことが依頼される側に負担や不快感を与えるリスクがあると考えているのかもしれない。

## 6. まとめ

本研究はB & Lのポライトネス理論を参考にし、大連外国語大学の中国語母語話者の在学生による依頼表現のコーパスを分析し、語用論の観点から依頼表現の研究を行った。

話の相手に対するポライトネス・ストラテジーに関して、CN1とCN2は一致しないことが明らかになった。CN2の依頼表現はより完全かつ体系的であり、上位者に敬意を表し、ネガティブ・ポライトネス・ストラテジーが使われる。上位者への敬称や感謝を込めた依頼表現はCN1とCN2の間に共通点があることを明らかにした。CN1にとって、親密な関係にあれば「感謝」という言葉をあまり使わず、むしろ心理的な距離を置かない、ポジティブ・ポライトネス・ストラテジーを使う傾向がある。親しい間柄の局面では「感謝」を使用しない。これは相手への「配慮」とも言える。依頼する局面の変化につれて、CN1とCN2の相違度も変化する傾向がある。簡単に依頼される場合、上位者と同位者への依頼表現は比較的ランダムである。しかし、場面の難度の上昇につれて、CN1とCN2の相違数が減少し、上位者と同位者に対する依頼表現がより一致する傾向がある。CN1とCN2の対話では、場面の難度の上昇につれて、依頼する前に「挨拶」、「配慮」、「前話題の挿入」などの表現連鎖が明確に増加することはなく、主に「状況説明」、「依頼」と「補助行為」などに集中している。本研究は、中国語母語話

表5 「先輩からお金を借りる」会話例

番号	会話参加者	会話内容	発話の連鎖
1	CN2-1	喂 (もしもし)	注意喚起
2	CN2-2	喂 (もしもし)	
3	CN2-1	学姐, 您最近还好吗? (先輩, お元気ですか?)	挨拶
4	CN2-1	我最近还总想起您之前在高中总帮助我, 没有您的帮助我也不能那么顺利考上大学 (高校時代, 先輩がいつも助けてくれたのを今も時々思い出す。先輩の助けがなければ無事大学に合格することができませんでした)	前話題の挿入
5	CN2-2	别客气, 我也愿意帮助你 (いいえ, 喜んで助けただけだった。)	
6	CN2-1	我有件事想求你, (ちょっとお願いしたいことがあるんです が,)	前置き
7	CN2-1	我妈生日快到了, 我想给我妈买点东西, 也是看了很久。但是你也知道, 月末了, 我兼职赚的钱也基本花完了, 手里钱不太够。买礼物的话还差点儿。 (もうすぐ母の誕生日だから, 母にプレゼントをしたくて, だいぶ前から色々見ていたけど, でも, 月末だから, バイトで稼いだお金を使い切っちゃって, 財布がきついなよね。プレゼントを買うにはちょっと足りなくてさ。)	状況説明
8	CN2-1	给我妈买礼物的话, 得跟你借点儿。 (お母さんにプレゼントするから, サポートしてほしい。)	依頼
9	CN2-2	这我可得说说你了, 我觉得现在就业形势不好, 你应该放更多的精力在学习上, 妈生日重要的是心意而不是礼物价格 (こんな事言いたくはないんだけど, 就職難が続いている今, もっと勉強に集中すべきではないだろうか。お母さんの誕生日プレゼントについてですが, 重要なのは気持ちで, 価格ではないのでは。)	
10	CN2-1	学姐你的意思我明白, 因为我妈这些年很辛苦, 我想让她高兴一下, 您能不能再考虑考虑, 借我点儿 (先輩の話はよく分かります。ただ母が苦労してきたから, プレゼントを買って喜ばせたいので, もう少し考えてくれるかな, お金を貸してほしいの。)	再度依頼
11	CN2-1	这个月兼职的工资到手马上还你。 (今月のバイト代を手に入れたらすぐに返すから。)	補助行為
12	CN2-2	行, 那好吧! 学习也别放松! (まあ, いいよ! 勉強をサボってんじゃないよ!)	
13	CN2-1	太感谢您了! (大感謝です!)	感謝
14	CN2-1	我就知道您是世界上最好最好的姐姐! (世界中で一番のお姉さんだと思った!)	夸赞
15	CN2-1	拜拜! (じゃね!)	会話の終結
16	CN2-2	拜拜! (じゃね!)	

表6 CN1とCN2の会話における発話の連鎖による出現回数およびその比率

番号	発話の連鎖	CN1会話における出現回数	CN1会話における未出現回数	出現回数の比率 (%)	CN2会話における出現回数	CN2会話における未出現回数	出現回数の比率 (%)	相違度 $\alpha=0.05$
1	注意喚起	30	18	62.5	40	8	83.33	有 P=0.022
2	挨拶	12	36	25	12	36	25	無 P=1.000
3	配慮	5	43	10.42	9	39	18.75	無 P=0.247
4	前話題の挿入	8	40	16.67	10	38	20.83	無 P=0.601
5	前置き	16	32	33.33	9	39	18.75	無 P=0.104
6	確認	6	42	12.5	2	46	4.17	無 P=0.140
7	状況説明	46	2	95.83	47	1	97.92	無 P=0.557
8	依頼	41	7	85.42	43	5	89.58	無 P=0.537
9	補助行為	33	15	68.75	32	16	66.67	無 P=0.827
10	再度依頼	12	36	25	9	39	18.75	無 P=0.459
11	説明の追加	26	22	54.17	26	22	54.17	無 P=1.000
12	後話題の挿入	4	44	8.33	3	45	6.25	無 P=0.695
13	感謝	0	48	0	35	13	72.92	有 P=0.000
14	謝罪	0	48	0	1	47	2.08	無 P=0.315
15	称赞	7	41	14.58	6	42	12.5	無 P=0.765
16	会話の終結	22	26	45.83	23	25	47.92	無 P=0.838



者の学生が、依頼する際に比較的率直に表現する傾向がみられ、前置き表現を好んで使わないことを突き止めた。

本研究は中国語母語話者の大学生の依頼表現のみを調査し、日本語母語話者の大学生や中国語母語話者の日本語学習者の依頼表現のあり方に関する調査内容を含んでいない。日本語の依頼表現に関する語用論的研究、及び対照研究については今後の課題とする。

#### 注

- 1) 真実の会話データを収集するために、著者はオンラインプログラムを利用して、いくつかの学生に対してランダムに問題を送った。最初のプログラムでは、その電話が依頼する側の親しい友人にかけるものであることを明示し、2番目のプログラムでは先輩に電話をかけるよう設定された。さらに、2つのプログラムにはそれぞれ4つの音声提出エリアが設けられており、各エリアには電話をかける背景と理由を記入する欄が設けられている。依頼される側には知らせずに、抜き打ちで行った。匿名で会話は言語分析のみを行い、他の目的はない。
- 2) いわゆる「有意差」はたまたま起こった差では無く、意味の有る差を指すものである。

#### 文献 (References)

- Brown, P. & Levinson, S.C. (1987). *Politeness: Some universals in language usage*. Cambridge University Press.
- 顧日国 (1992). 「礼貌, 语用与文化」『外语教学与研究』(4): 10-17.
- 浜田麻里 (1995). 「依頼表現の対照研究——中国における命令依頼の方略」『日本語学』.
- 宇佐美まゆみ (2001). 『談話のポライトネス—ポライトネスの談話理論構想』凡人社.
- 曲卫国・陈流芳 (2001). 「汉语招呼分析」『华东师范大学学报』(5): 116-124.
- 松田真一・佐野正樹 (2001). 「Fisher の正確確率検定に対応する比率の差の信頼区間」『南山大学紀要』: アカデミア数理情報編.
- 宇佐美まゆみ (2002). 「ポライトネス理論の展開」『1~12月刊言語』.
- 冉永平・张新红 (2007). 『语用学纵横』高等教育出版社.
- 母育新・邴永玮 (2010). 「基于话语礼貌理论的日语请求行为研究」『外语教学』.
- 三宅和子 (2011). 『日本語の対人関係把握と配慮言語行動』ひつじ書房.
- 母育新 (2011). 「依頼行動における中国人日本語学習者の問題点—ディスコース・ポライトネス理論の観点からの考察」『東京外国語大学日本研究教育年報』15.
- 母育新 (2014). 『現代日语礼貌现象研究』浙江工商大学出版社.
- 时晓阳 (2014). 「话语礼貌理论视角下的日语拒绝行为研究」『日语学习与研究』.
- 宇佐美まゆみ (2017). 『ディスコース・ポライトネス理論の展開—「時間」「フェイス充足度」「フェイス均衡原理」という概念を中心に』華東理工大学出版社.
- 島田めぐみ・野口裕之 (2017). 『日本語教育のための初めての統計分析』ひつじ書房.
- 三牧陽子 (2018). 『ポライトネスの談話分析——初対面コミュニケーションの姿としくみ』くろしお出版.
- 冉永平・赵林森 (2018). 「基于人情原则的人际关系新模式——人际语用学本土研究」『外语与外语教学』(2): 34-45.
- 母育新 (2019). 「语用学新理论视域下的汉日对比研究方法论」『日语学习与研究』13-22.
- 项往・母育新・储天阳 (2022). 「话语礼貌理论视域下汉日拒绝场景请求行为对比研究——基于同性之间亲近关系的维度」『日语学习与研究』.
- 戦慶勝 (2023). 『汉语敬语研究』白帝社.